算数・数学研究委員会

1，研究テーマ

「獲得した力を生かし，学ぶ意欲と喜びをもって追究する子どもを育むカリキュラムの創造」
～算数･数学を学ぶことの楽しさを実感できる学習構想～

2，研究課題

今年度は、昨年度の研究の成果をふまえ、岩波ブックレットの「算数があぶない（関沢正弥著)」「習熟度別指導の何が問題か（佐藤学著)」の読み合わせを行いながら、子どもや算数・数学の実態や課題を学ぶことから始めた。

栗ガ丘小学校では、「子ども自ら追究し、わかる喜びがもてる算数授業のあり方」をテーマとし、
①見通しを持ち筋道を立てて考える能力を育てるための問題解決力を高める算数的な活動のあり
②自分の結論が出ると満足してしまう児童、教師主導の授業展開の実態をふまえ、子どもたちの学び合いの中で、自信を持って数理を追究できる共同追究のあり方
③同じ領域の単元を継続して学習することで学習に対する意欲が継続するだけでなく、獲得した数理を生かして系統的に学習できるのではないかという仮説の中で、学ぶ意欲と喜びのもてるカリキュラムの工夫

この３つを視点に、郡のテーマと摺り合わせながら、算数的活動のあり方と共同追究における数学的なコミュニケーション能力の育成をねらいとしてカリキュラムを練り直してきた。

①子どもの実態や傾向からニーズを検討し，カリキュラムを修正・開発していく。
②教科における学校教育目標の具現の姿を明確にし，カリキュラムをつくり出していく。
③算数・数学を学ぶ楽しさ（本質）を実感できる教材の開発・選定を図る。
④授業の中で，子どもが自分の可能性を少しでも感じられる場面を設定する。
⑤学習のねらいや内容に応じた少人数学習指導のあり方⇒子どもの実態に応じた学習体制

3，事例から明らかになったこと

＜問題解決力を高める算数的活動のあり方＞について

○自ら追究するためには、問題解決力をつけていく必褄癨曇　。　　、「　　」